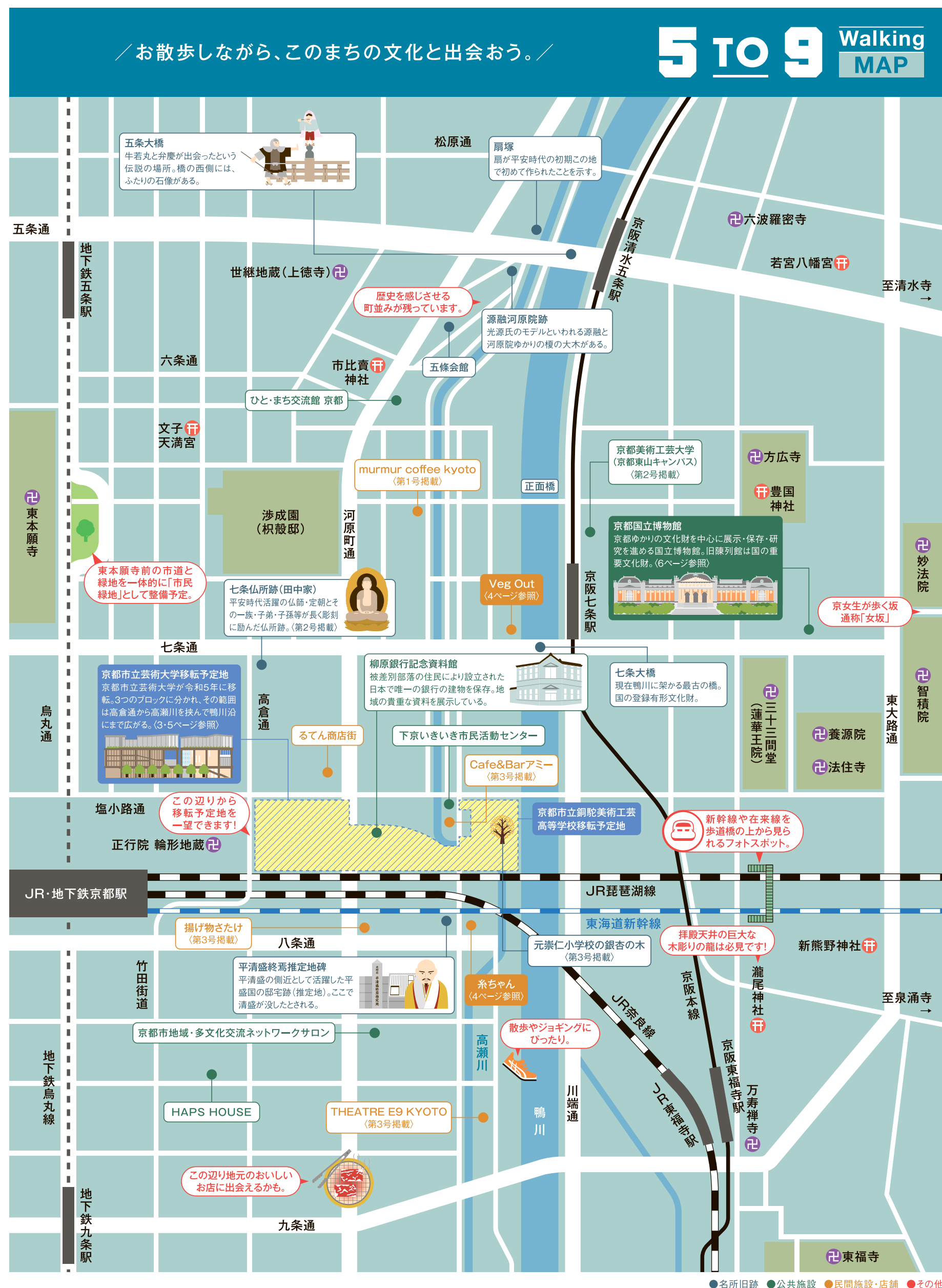




… 御意見・御感想大募集!

5TO9(ゴートゥ・ナイン)への御意見・御感想の他、「こんな素敵な人がいる! あんな素敵な場所がある!」という情報をぜひお寄せください!

※いただいた内容は、誌面上で紹介する場合がございます。

【お送り先】▶京都市総合企画局プロジェクト推進室 TEL.075-222-3176(土、日、祝を除く 午前8:45~午後5:30) FAX.075-213-0443
〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地 ☒project@city.kyoto.lg.jp

京都市
CITY OF KYOTO

京都駅東部エリアのカルチャーを発信。

5 to 9

KYOTO East side CULTURE JOURNAL





Profile

たけうちゆういち
竹内有一

(京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター教授)

1967年長野市生まれ。国立音楽大学大学院音楽研究科修士課程修了。専門は三味線音楽。1986年より今藤政太郎(人間国宝)に長唄三味線の手ほどきを受け、1991年常磐津清若太夫に入門。1994年初舞台、1995年名取り(常磐津若音太夫)。2004年より現職。

竹内有一が語る 大学と地域、 そして研究。

芸大教授として

祭り囃子の研究に取り組む。

“アラドッコイ、ドッコイセー”という掛け声と、篠笛、太鼓、鉦の音からなる祭り囃子に導かれ、子どもたちを乗せた船鉦がまちを巡る。京都市立芸術大学が移転する崇仁学区で、毎年5月に開催される春祭りで見られる光景だ。

全国各地で、地域の祭りの継承が課題となっているが、「この地域では、このままではまちの宝が消えてしまうという危機感を持った人たちが、昔の記憶をたどったり、年長者に聞き取りをして祭り囃子を復興させた」と聞かれています。そう語るのは、京都市立芸術大学の日本伝統音楽研究センター教授の竹内有一さん。令和元年から崇仁学区の祭り囃子の研究に取り組んでいる。

一貫性のなさは

多様な専門性を持つ証し。

竹内さんは、江戸時代の文献や錦絵を紐解き、常磐津節※の曲目が生まれたきっかけや当時の演奏形態などを長年研究する傍ら、京都の南座

※物語を節で語る「浄瑠璃(じょうるり)」の一つ。「太夫(たゆう)」と呼ばれる語り担当と三味線を担当する三味線方(しゃみせんかた)で構成される。



常磐津節の曲目が生まれたきっかけや当時の演奏形態を研究する中で、集められた江戸時代の錦絵。



5 TO 9

Yuichi Takeuchi talks Kyoto city University of Arts , areas and research

Special Interview

大学が地域に学び、 まちの新たな伝統を育む。

そもそも祭り囃子の研究は、竹内さんの専門分野ではない。「常磐津節は伝統芸能。一方、祭り囃子は民俗芸能であり、それぞれ研究手法が異なります。民俗芸能の研究では地域や共同体に足を運び、そこに暮らす人たちと関わりながら研究を深めていきます。私にとってはチャレンジングな分野です。ただ、これまでの研究で得た知見を、芸大が移転するまちで活かせたらと思い、崇仁学区の祭り囃子が抱える課題を日本音楽研究の観点から調査しています」。

竹内さんは祭り囃子に用いる篠笛の試作のほか、崇仁お囃子会の稽古や演奏会への協力などをとおし、祭り囃子の調査と継承のサポートを行っている。また、研究の成果を公開講座というかたちで市民に広く伝えている。これらの取組を積み重ねることで、「大学が地域から学び、また、大学の力がまちの新たな伝統を育むことに繋がっていくと考えています」と話す。



祭り囃子の研究からはじまった篠笛の試作(上)。

研究を地域に

還元していく。

学生の指導において大切にしているのが、好奇心だという。「学生が好奇心を持ち、具体的な行動に移そうとがいている姿を見ると、自分もなにか力になれないかと試行錯誤します。例えば、先日、美術学部の学生が、『七条仏所跡』にある町家の再生プロジェクト(『5TO9』第2号参照)に取り組む中で見つけた三味線を修復して演奏したいと、相談してきました。まだ実物を見ていないので、それが可能な保存状態なのか判断できていませんが、研究の一環で三味線の革張りもしたところなので、可能な限りサポートしたいと考えています」。

若い世代への期待も大きい。「すべての研究を



崇仁船鉦巡行にて。芸大生とともに笛演奏と伝承調査。白法被の笛方ベテランの音色に魅了される(2019年5月)。

自分一人で行うのは無理なので、これからの時代を担う若い研究者に託していくことも心掛けています。今回の祭り囃子の研究は、地域の方、ほかの専門分野の研究者、そして学生など、多くの方々の協力の下で実現しています。こうしたサポートを、若手の研究者や学生にもいただけるよう、ぜひお願いしたいです」。

最後に研究との向き合い方を語ってくれた。「研究って、必要な資料を探し出したり、途方もない量の資料を読み解いたりとすごく根気のいる作業の連続なので、劇的に何か変化が見えるわけではありません。傍から見ていると、進捗の見えなさに不安になる人も少なくないかもしれません。ただ、どんなに地道な研究でも続けている限り、着実に前進しています。また、それはいつかきっと地域の皆さんに還元できる日が来ます。その日を楽しみに、ぜひ優しく見守っていただけると嬉しいです」。



研究の一環で革張りした三味線。皮の外周は未処理のため、ギザギザに切って楽しんでみた。



顧問をつとめる大学の部活「常磐津部」と崇仁お囃子会有志とのコラボレーション(2019年7月)。



若いアーティストたちが京都市立芸術大学移転予定地を題材にしたアート作品を制作していく「移りゆくまち」プロジェクト。今回は同大学の卒業生である山根香さんが映像作品の制作に取り組んだ。

これまでの思い出したり、これからを想像する。きっかけに。



ネット ポリヘドロン アート スクジン
「net polyhedron at Suujin 2021」 現在まちの日常の風景となっているフェンス、ドローンを使って撮影した更地となった地面、そして、まちの風景がどのように変わろうとも、決して変わることはない空の映像を使い、移りゆくまちの姿を表現する。

移りゆく京都市立芸術大学移転予定地の姿をフェンス、地面、空の3つの視点で映像化。

作品のタイトルは「net polyhedron at Suujin 2021」。仮囲いのフェンスで囲まれた京都市立芸術大学の移転予定地を多面体 (polyhedron) の展開図 (net) に見立てた10分ほどの映像作品。

ふと気づいたら思い出の場所がなくなって、記憶からも消えてしまうかもしれない怖さを感じた。

山根さんは、大学2回生のときに初めて移転予定地周辺を訪れた。「当時、元崇仁小学校では、地域の住民や芸大生など多くの人が集い、交流していて、その様子をこのまちの印象として持っていました」。それからほんの数年後、久しぶりに訪れると、小学校は解体され、自分が記憶していたまちの姿から変わっていたという。「まちは生き物なので、まちが変わることはポジティブに捉えているんです。でも、ふと気づいたら思い出の場所がなくなっている寂しさ、それがやがて記憶からも消えてしまうかもしれない怖さを感じました。たった数年このまちに接した自分がそうなのだから、このまちに深いかかわりがある人なら、もっと強く感じているかもしれない。そう考え、まちのありのままの姿をさまざまな面から記録するとともに、この作品を見た人にはこれまでの思い出したり、これからを想像したりしてもらえればと思っています」。

大学からまちへ、このまちから京都へ、小さな変化が広がることを期待。

「京都市立芸術大学がどんな学校か知らない人って実は多いのではないのでしょうか。私自身、芸大に入って初めて知ったことが沢山ありました。例えば、絵を描いたり、彫刻を作ったり、だけではない世界が芸術にはあるということ。芸

大には、ユニークな発想を持つ学生が多いので、「これも芸術なの?!」とこのまちにも刺激と衝撃を与えるかもしれません (笑)。それに、芸大生が全員、卒業後に『職業＝アーティスト』になるわけではありません。会社に勤めながら、お店をしながらでもなにかを表現することはできるという選択肢があることも、私が芸大に通って知ったことの一つです。ただ、芸大生の学びの場は大学だけではなく、普段の生活の中でいろんなことを感じたり、考えたりして、それが作品制作につながっていくことも多いです。まわりの人に学ばせてもらうだけではなくて、お互いに刺激し合う関係が理想的かなと思います。あと2年後に大学が移転するわけですが、このまちでのちょっとした会話や展示をととして、まちと芸大生との関係が紡がれるという小さな変化がまちに広がり、それがこのまちから京都全体へと広がっていくことを期待しています」。



アーティスト 山根香さん
平成6年生まれ。大阪府出身。平成31年京都市立芸術大学美術学部構想設計専攻卒業。



アート作品でつながる若手アーティストと地域。
山根さんの映像作品が展示される「糸ちゃん」(須原通八条上る東側)と「Veg Out」(七条大橋西詰北側)を訪問し、「糸ちゃん」の中川美枝子さんと「Veg Out」の平山雄一さんにお話を伺った。

▶9/14(火)～23(木・祝)



20種類以上のメニューを提供する「糸ちゃん」。 お店について教えてください。

中川さん
50年前に先代である母がうどん屋を始め、37年前に今の場所へお店を移しました。最初はすじ肉を入れたうどんが看板メニューでした。お客さんに喜んでもらいたいという思いで、井ものや定食のメニューも増やしていった、今では20種類以上のメニューを御用意しています。

今回、山根さんのリクエストで作品が店内に展示されます。

中川さん
声を掛けてもらったときは「こんなとこでええの」とびっくりしました。作品を見せてもらうと自分が卒業した小学校や昔のまちのことを思い出、とても懐かしくなりました。それに、このまちが、これからこんな風になつたらいいなって、ちょっと先のことも想像しちゃいます。お客さんはずっとこのまちに住んでいる人が多いので、皆さん喜ぶと思いますよ。



鴨川を一望するロケーション「Veg Out」。 お店について教えてください。

平山さん
鴨川に面しており、自然を感じられると御好評をいただいています。鴨川沿いは、春は桜、夏は新緑、秋は紅葉が色づき、川の流れるも変化に富んでいます。川が流れる都市は世界中に沢山ありますが、ちょうどいい水量の川が市内の真ん中を流れているのは京都くらいではないでしょうか。お店では、お魚、肉などの動物性食品は一切使わず、自然農法等で育てられた京都のお野菜を中心としたメニューを御用意しています。

山根さんから作品展示の依頼があったときはどう思いましたか。

平山さん
僕もアートが好きで、これまでに店内でイラストの展示や書道のライブパフォーマンスを企画したことがあります。映像に関心があったので、お話を聞いたときは「待ってました」って感じてました (笑)。作品はシンプルで美しい映像により、これか

山根さん
作品は店内にあるタブレットで自由に御覧になれます。映像を見て話の種にしていたければ嬉しいです。

京都市立芸術大学の移転についてどう思いますか。

中川さん
このへんはお年寄りが多いので、若い人が来てくれるとまちが活気づくと思います。若い人から私たちも学びたい。ですから大歓迎です。私はクラシック音楽が好きなので、演奏会にぜひお邪魔したいと思ってます。それに、大学には学食もできるんやんね。

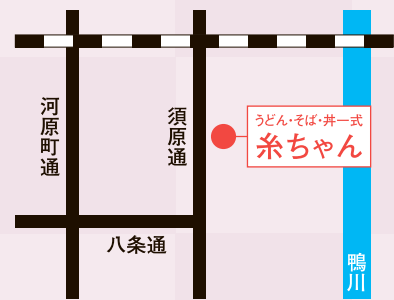
山根さん
普段は学食で食べることが多いですが、みんなここに来るようになってと思います。「おいしいっ!」て口コミで広がって。

中川さん
嬉しいわあ。若い人にはたくさん食べて元気に過ごしてほしいですね。それに、私たちもできる限り協力をしたいなと思ってます。でも、若い人が何に困ってるかわからない。ただ、ごはんを食べてもらいながらでも話したら、私たちが力になれることがわかるんじゃないかなって。楽しみにしています。



人気No.1メニューの「なべ焼きうどん全部入り」

営業時間／10:00～21:00 日・月曜休
TEL.075-661-4023



ら変わっていくまちの将来を表現しているようで、とても興味深い内容だと思います。変化の中にいると、変化に気づかないことも多くて。この作品によって、まちを客観視しつつ、これからのこともイメージしていけるんじゃないかなって思いました。
山根さん
私も料理やコーヒーはもちろん、お店の雰囲気が入っていたので、こちらで展示できることになって本当に嬉しいです。

このまちにやってくる京都市立芸術大学の学生にメッセージを。

平山さん
山根さんのように、この店を表現の場としてどんどん利用してください。僕は、食もアートだと思って、このお店で表現しています。地域の方々と一緒に、ここから新しいカルチャーを発信できるかもしれないと思うと、なんだかワクワクしますよね。芸大がこのまちにきて、より多様な人たちが交差する場になればと思います。若い人が集まることによって生まれるエネルギーってすごいですからね。応援してます。

山根さん
このお店は、芸大生の「あったらいいな」がまつ場所だと思います。芸大生たちは、平山さんのような方の協力をいただいて育つものなので、とても心強いです。



営業時間／11:00～15:00[ランチ]
15:00～18:00[カフェタイム] 月曜休
TEL.075-748-1124



京都市立芸術大学

INFORMATION

chapter

1

ふらっと
芸大へ。

令和5年度、京都駅東部に移転する京都市立芸術大学は、誰もが気軽に訪れることができる「テラスのような大学」をコンセプトとして整備しています。大学には、音楽ホールやギャラリーが設置されます。散歩の途中にふらっと立ち寄り、創造性溢れるアート作品や学生が奏でる音色にふれてみてはいかがでしょうか。また大学内の食堂や図書館は、地域の方も利用できます。開放的なキャンパスで生まれる、芸大を訪れる人々と芸大生との交流が、このまちの新たな息吹となることが期待されます。

C地区 | 音楽ホール 兼 講堂



地域の方にも楽しんでいただける音楽学部や大学院の在学生による演奏会、日本伝統音楽研究センターの公開講座などが開催されます。

C地区 | ギャラリー@KCUA(アクア)



地域の方にも広くアートに親しんでいただける美術学部や大学院の教員・在学生・卒業生による展覧会などが開催されます。



C地区3階テラスから
南北を貫く大通り(芸大通)や中高層階の大きなテラス(屋外スペース)は、芸大を訪ねる人々と芸大生の交流の場となります。



C地区北西側から



B地区北側から



新幹線から



A地区北東側から

from

京都国立
博物館京都国立博物館が育む
地域とのつながり。

東山七条で明治30年(1897)からの歴史を受け継ぐ京都国立博物館。名だたる所蔵品、見応えのある展示により日本全国からファンを呼び寄せる「京博」は、「地域に根差した博物館」という一面を持っている。同博物館総務課の高田幸恵さんに、「京博」と地域とのつながりについて伺った。



京都国立博物館 総務課の
高田幸恵さん



重要文化財の明治古都館で行われた京都女子大学のアパレル企画製作部「Twinkle」によるファッションショー。

特別展 畠山記念館の名品

一能楽から茶の湯、そして琳派—
10/9(土)~12/5(日)



博物館を大学の文化発信や教育の場に。

「この7月に重要文化財の明治古都館で近隣の京都女子大学のアパレル企画製作部「Twinkle」によるファッションショーが開催され、SNSなどを通じて発信されました。また、これまでも京都美術工芸大学が授業で当館の茶室を利用されたりと、大学の文化発信や教育のさまざまな場面で、当館を活用いただいております。大学のまちと言われる京都で、こうした形で協力になれることを、当館としても光栄に感じております。」

「京都市立芸術大学が移転してくると、当館ともかなり距離が近くなるので、気軽に芸大生にも利用いただきたいと思います。また、当館では近隣の学生と共に、京都市内の小中学校で美術の訪問授業を行っています。芸大が来ると活動の幅が広がるかもしれませんね」と2年後に近くに移転する市立芸大への期待も高い。

商店街のなかの博物館。

「京博」にはほかの国立博物館にはない特徴があるという。「東京、奈良、九州、京都の4つの国立博物館のうち、商店街にある博物館は当館だけで、川端通から東大路通までの七条通沿いにある七条鴨東商店街に加盟しています。特別展の開催時には、フラッグ広告やポスターを商店街で連携し掲出しています。各お店では当館の展示スケジュールを見越して、年間の事業計画や販促計画が立てられると聞いています。平成29年の国宝展では延べ75万人が来場されましたが、約2カ月の期間中、商店街も一体となって盛り上げていただきました。」

本来の使命をとおして地域に貢献。

「当館の使命は文化財の展示や研究、修理事業などをとおして、京都の伝統文化の魅力を国内外に発信することです。今年の2月、アメリカのサンフランシスコ

コ・アジア美術館と学術交流協定を結びました。今後はこのような交流を増やし、相互で文化財の研究や展示を活発に行うことで地域の文化振興に貢献したいと考えています」。

知る人ぞ知るおすすめスポット。

最後に博物館内のお気に入りの場所を教えてください。「ロダン作の『考える人』がある庭園です。夏場はちょっと暑いですが、広々とした庭は緑と四季の彩りが豊かで、憩いの場としておすすめです。桃山時代に豊臣秀吉がつくらせた五条大橋と三条大橋の橋脚、室町時代の石塔、平安時代の石仏などが点在し、歩いていただくといろいろな発見があると思います」。



桃山時代につくられた五条大橋と三条大橋の橋脚。